

# 四国地区高専共通試験における

## 高松高専生の英語能力の分析

### An Analysis of English Proficiency of the Students at Takamatsu National College of Technology through a Study of A.C.E. Test Results

出淵幹郎・有道祐子・市川緑・宇野光範

Students at five National Colleges of Technology in Shikoku region took an English language proficiency test called A.C.E. (Assessment of Communicative English) conducted by ELPA on January 11<sup>th</sup>, 2005. Although students at Takamatsu College of Technology scored higher in the listening section compared to high school students of the same age, the test results gathered at this college suggest that the students lack vocabulary knowledge. With regard to reading ability, students at this college tend to have defects in what we would like to call static sentences, while they are quite strong in dynamic sentences. In other words, they are quite capable of dealing with the idiomatic expressions and rapid reading in colloquial English, whereas they have defects in reading descriptive writings and vocabulary knowledge. While the test results have shown that the English language instruction of our college under the current curriculum, which focuses on acquiring practical English expressions, is fairly effective, we might be able to enhance the students' proficiency in English by reinforcing their reading ability and vocabulary knowledge of static sentences.

#### 1. はじめに

平成 17 年 1 月 11 日、平成 16 年度四国地区高専共通試験が四国内五高専の 3 年生を対象に実施された。英語の問題として使用した、英語運用能力評価協会(ELPA)の A. C. E. 試験(Assessment of Communicative English)は、主に高等学校、高等専門学校、大学の学生を対象とし、中学既習事項から高校卒業程度のレベル設定で、学生の英語運用能力を測定する試験である。平成 17 年 1 月の時点で 338 の高等学校、高等専門学校、大学で生徒、学生の学力を測定するために導入されている。試験の構成は Part1 リスニング 30 問 (35 分:300 点)、Part2 語彙・文法 48 問 (15 分:300 点)、リーディング 20 問 (30 分:300 点) となっており、問題はすべてマークシート形式である。本稿では、高松高専生の英語の試験結果分析を行ない、本校の英語教育の意義と課題を再確認し、今後の指針にしたい。

#### 2. リスニング問題にみる特徴

リスニング試験は 3 つのセクションから構成されており、セクション 1 は大意把握問題、セクション 2 は情報収集問題、セクション 3 は総合リスニング問題となっている。高松高専の学生のリスニング試験の結果は、平均が 300 点満点中 172 点で、高校 3 年生の平均値 165 点に対してや

や高い。データの関係上、各問題について高校生との比較はできないが、本校生には「英文を聴き取る能力は高いが、単語力は不足している」という特徴が見られた。

聴き取る能力が高いというのは、話の内容が複雑で聴解が難しい問題でも、語彙の難易度がそれほど高くなければ、正答率が高いというところからうかがえる。例えば、セクション2の問題13はすごろくで遊んでいる男女の会話で、会話の終了時点で、女性のこまがどこにあるかを聴き取らなければならない。「星型のマークに到達した場合次の星型までこまを進めることができ、ハート型に到達したら二つ先まで進め、悲しい顔マークに行った場合は二つ戻らなければならない」というルールが会話に出てくる。そのルールを聴き取り理解した上で、二人の振ったさいころの目を聴き取り、ルールに則りすごろく上の二人のこまの位置を把握する必要がある。2回聴いただけでは理解するのが難解なこの問題の正答率は56.8%で、問題の難易度からすれば比較的高い数字である。(正答率はELPA提供の資料による。)

反面、聴き取る英文の語彙が難解な場合や、紙面に書かれた選択肢内の単語の難易度が高い場合、正答率が低い傾向が見られる。例えば、問題17の正答率は17.9%、問題19の正答率は17.8%で30問中最低である。問題19にはgrabbed, a thief in disguise など、written textとして与えられていたとしても意味がわからなかったと思われるような語が含まれていたため、この問題を聴解するのは非常に困難であろう。しかし、問題17の中に含まれているdecrease, increase, remain, throughout など、本校生は理解できなかった可能性のある単語は、入学時に購入させている単語集(『データベース3000』、桐原書店:以後DB3000)で既に学習している極めて基本的なものである。したがって、本校の学生は、聴き取る能力に比べ、語彙力のなさには問題があるといわざるをえない。

リスニングパートの結果として、先にも述べたように、高松高専生の英語リスニング能力は同じ学年の高校生に対して比較的高いが、その能力をさらに伸ばすにあたっての課題は、語彙力の強化であることが分かった。この点に関しては、1年生から3年生までを対象に、入学時に購入させている単語集DB3000を用いた英単語試験を、定期的に行なっている。今年で3年目の取り組みとなるので、平成17年度3年生は、1年次からこの単語試験を毎年受験してきた最初の学年ということになる。現行の英語科カリキュラムに加え、単語試験等による語彙力の強化を行なうことで、より一層高松高専の学生のリスニング能力が向上することが期待される。

### 3. 語彙・文法問題にみる特徴

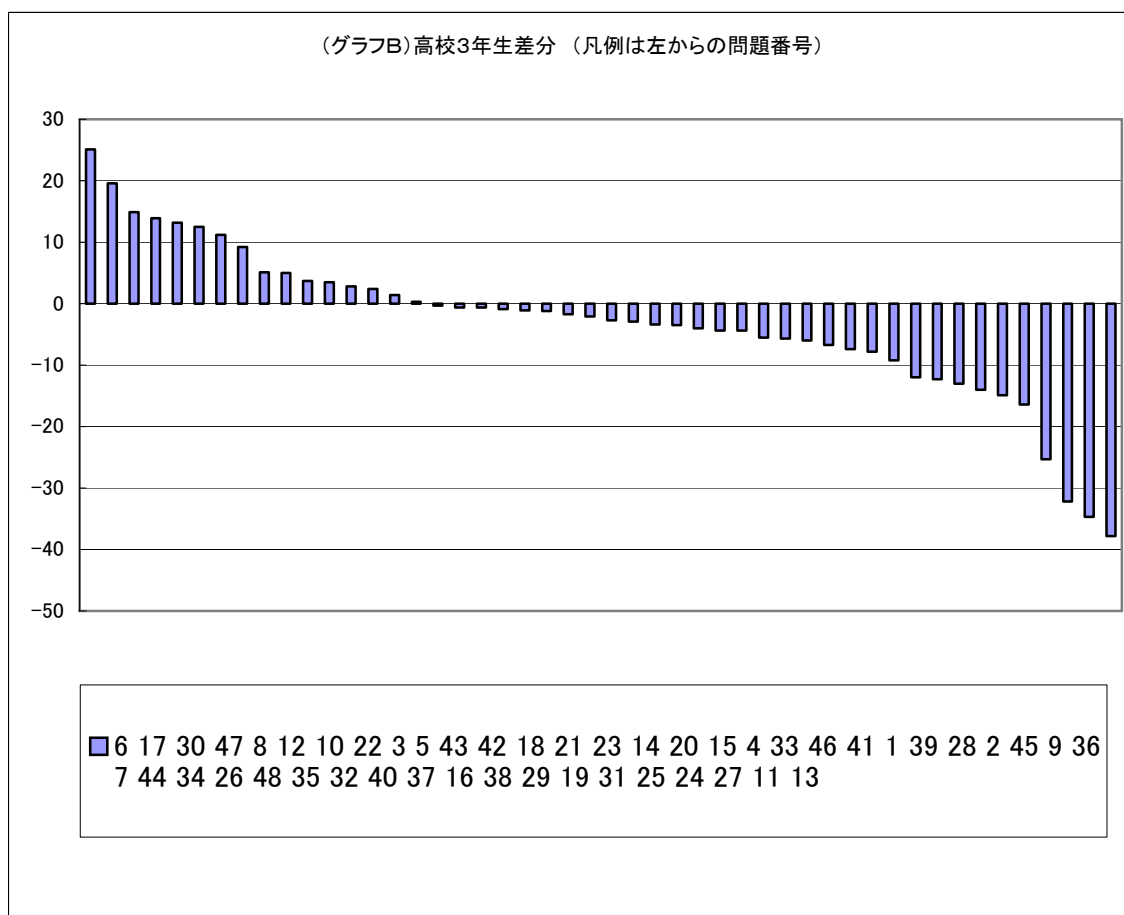
#### 3.1. 結果

今回の試験では48問の語彙・文法問題があったが、本校3年生と高校3年生、および高校1年生との正答率の差を表したものが表A(別紙)であり、最下段に総合点の差分がとってある。ここでの高校生の成績は、ELPA2005年vol.1の資料によるものであり、高校3年生999人、高校1年生7,767人を母集団とした結果である。

この表Aをみると、高松高専生のこのセクションにおける正答率は高校3年生平均と比べて3.1ポイント低く、高校1年生に比べて1ポイント高くなっている。この数値が高校生と比較し

て顕著な差を実証するものかどうかは判断が難しいが、同学年の高校生に比べて秀でているというのではなく、多少低い結果となっていることが伺える。

一方、個別の問題に目を向けると、そこには高校生と比較して大きな差が見られる。全体の出来、不出来という点では顕著な差がないにもかかわらず、特定の問題については、明らかな差がみられるのである。高校1年生平均との正答率の差分を順に並べたものがつぎのグラフBである。



Y 軸+が高校生と比較して高松高専生の出来がよかったもの、-が高松高専生の出来が悪かったものである。

以下に特徴的であった二つの問題について考察を加えたい。ひとつ目は高校3年生に比べて最も出来が悪かった問題であり、二つ目は逆に、本校生の相対的な出来がよかった問題である。これらの分析を通して、高松高専生の英語能力の特徴を窺い知ることが出来るように思われる。

### 3.2. 分析

#### ①borrow にみるひとつの特徴

ここでは高校生との差が最も開いた問題について考察する。

borrow は「借りる」という意味の動詞であり、その意味からも明らかなように最も基本的な単語の1つである。これは単語集 DB3000 の level 3 にも載っており高松高専の3年生にとって

も既習語であるから、当然正解してしかるべき問題である。ところが事実として、この問題が高松高専生との間で最も差の開いた問題となっている。これは多くのことを示唆している。

まずはこの問題をみてみよう。なお、[ ]内の数字は、ELPA 提供のデータによる、高松高専生の各解答に対する選択者のパーセンテージである。

13. For the party, I want to ( ) a dress from my sister.

1. appear [3.7%] 2. borrow [22.1%] 3. lend [71.2%] 4. pass [3.1%]

さて、語彙問題に関して一般的な課題のひとつは、覚えているはずの単語をなぜ忘れてしまったのか、というものである。教育上それが大きな問題であるのはいうまでもないが、それは個々の単語に特徴的な問題ではなく、単語学習全般に対していえることである。これに対して、今我々にとって問題なのは、なぜこの上記の問題で、高校生との差が最もひらいてしまったのか、という観点である。結論から述べると、ここには高専英語の弱点のみならず、ポジティブな点も隠れているようにおもわれる。

#### ①-1 受験英語と実践英語

一度受験英語を経験した者にとっては、この問題がいわゆる典型的な「定番問題」であることは明らかであろう。すなわちここで問われているのは、borrow (借りる) と lend (貸す) の使い分けである。先の結果に示したように、本校生の 71%がこの問題に「ひっかかってしまった」ことになる。

(あ) Can I borrow your pen? (ペンを貸してくれない?)

(い) I'll lend you my pen. (ペンを貸してあげよう)

等のペアを覚えることは受験英語では必須である。もちろん、(あ) も (い) も自然な英語である。ところが、現実の生活でしばしば直面するような、ものの簡単な貸し借りの場面では、実際には (あ) はあまり使われることがない。むしろ、

(あ2) Can I use your pen?

のように use が使われることがほとんどである。そして“Can I use your pen?” に対する返答は、“Sure” と口にしながら実際にペンを差し出すという行為そのものであることが、最も一般的であろう。

それでは、なぜ受験英語で use が使われることが少ないのか。それは

(う) Can I borrow your bathroom? まちがい

(え) Can I use your bathroom? 正解 (トイレを借りていいですか?)

という、第二の定番問題が存在するからであると思われるが、本題から逸れるためこれ以上は立ち入らない。

後に見るように、高専英語教育の特徴のひとつは受験英語という限定から解放された、生きた英語の習得にあり、たとえば低学年の速読で用いている教材もそうした観点から選定している。もし仮に“Can I ( ) your pen?” と穴埋めの問題があったとすれば、コミュニケーションを成立させることのできる学生は多いのではないかと予想される。「borrow を知らない高

専生は、英語を使って物を借りることすら出来ない」と判断するのであれば、それはあきらかな間違いである。

#### ①-2 「静的な文」に対する弱さ

しかし、以上の点だけでは、出来の悪い問題を取りあげて、それを受験英語/実践英語という構図に引きずり込むことによって、むしろ逆に高専生の英語を擁護しているようにとらわれかねない。そして実際、誤答の多かった問題から楽観的な帰結を導くことはできない。仮にこの問題の選択肢の中に use という語が含まれていたとしても、

For the party, I want to ( use ) a dress from my sister.

は間違った英文である。use や wear など現実の状況で用いられそうな語が含まれていた場合にも、本校生の正答率が高くなっていた可能性はほとんどない。

それでは、本校生の弱点はどこにあるのか。

(お) For the party, I want to borrow a dress from my sister.

という文を分析するにあたり、文というものを、動的（ダイナミック）な文、静的（スタティック）な文という二種類に分けて考えてみよう。動的な文とは、言語行為の一環としてとらえたときの実践的な文である。それに対して静的な文とは、文脈や言語行為を捨象した上でもメッセージが一意的に決定できるような文である。ここで一人称/三人称や会話文/平叙文という区別を用いないのは、(お) のような一人称の文を “I’ ll wear my sister’ s there.” のような動的な一人称の文から区別するためである。

静的な文は、日常生活の中で用いられることは比較的少ないのであるが、説明文や論説文では、その中の文の大きな割合を占めている。後のリーディングパートの結果にも表われるように、本校生の特徴のひとつとして、こうした静的な文の読解力が弱いということが挙げられる。

#### ②by the window, turn down the music にみる、動的な文に対する強さ

先程の間 13 に対して、高校 3 年生と比較したときに本校生の出来がよかった問題の第一位と第二位は次の問題である。

6. “Where should we sit?” “I like that table ( by ) the window”

17. “( Turn ) down the music. It’ s too loud!” “Oh, I’ m sorry.”

問 6 では正解率の差は本校生が+25.1%、問 17 では+19.6%であり、明らかな差が出ているとみてよい。さらに特筆すべきことには、本校生の正答率が、問 6 で 98.2%、問 17 で 72.4%という高い数字になっている。(ELPA 提供の資料による。)

動的な文/静的な文という特徴で文というものを分けたとき、これらはともに、動的な文として分類される。またこれらはともに、非常に実践的な会話表現であり、こうしたジャンルに対する高専生の健闘がうかがえる。

近接をあらわす by や、熟語 turn down は、受験英語においては「暗記」の対象である。たとえば turn という語は、そのみでは「曲がる、方向転換する」というような意味で用いられ

ることが多いから、turn down を「音量を下げる」という意味として理解するためには熟語として別途覚えておかなければならない。実践的な言語活動においては「音量を下げる」という状況は決して不自然なものではなく、しばしば登場するようなものである。本校生はこのような表現に日頃から接しているうちに、自然と身に付けていることが予想される。

高専生の英語の特徴として熟語やイディオムに弱いということを目にするところがあるが、その範疇化に関しては必ずしも正しくないことが示されたのではないかと思われる。むしろ、動的な文/静的な文というカテゴリーで捉えた方が本校生の特徴を表現できているのではないかと思われる。

#### 4. リーディング・セクションにみる特徴

リーディング・セクションでは11の長文について、それぞれ1から3問の英語での問題と英語の選択肢(四択)が出されている。問題数は合計20問であり、制限時間は30分となっているから、かなりの速読能力が必要とされる。文章のジャンルは広告文から説明文に至るまで幅広く選定されており、問題形式はTOEICともよく似たものである。

このセクションでは高校3年生の平均点が154点であるのに対して、本校生の平均点は152点であった。データの関係上各問題について高校生との比較はできないが、高専生の特徴はつぎのようであった。

1. 最後の問題までしっかり読んでおり、速読能力がある。
2. 難しい語彙を伴う科学的な説明文、解説文について正答率が悪い。

まず、1についてであるが、最終問題のカカオの栽培に関する問題について、その文章のポイントを問う問題の正答率が65%と、他の問題と比較してよい方であった。具体的な文章については省略するが、その主な内容は、「カカオが自然林での、他の大きな木に覆われた状態での生育に適しており、開墾の必要性がないことから収益率が高い」というものであり、きちんと文を読めなければ正答出来ないようなものであった。これは最終問題文であるだけでなく、それなりに複雑な内容であったから、限られた時間の中できちんと最後まで読んでいたということがうかがえる。速読に重点をおいた本校での授業がよく生かされている結果ではないかと思われる。

これに対して、課題となるのは上記の2で指摘した点についてである。具体的には、「携帯電話から出る電波により脳癌等の危険性があるという指摘について、実験の結果それが実証されてはいないものの、かならずしも反証されたわけではない」という内容の、新聞記事風の文章に対する正答率が23.9%、24.5%と著しく低かった。四択問題のため、それらの正答率は誤答を促す選択肢に惑わされてしまったことを示している。

正答率23.9%となってしまった問題15は次のようなものであった。なお[ ]内のパーセンテージは本校生がその選択肢を選んだ割合である。

15. What does “something bad” in the title mean?

- |                 |         |                       |         |      |
|-----------------|---------|-----------------------|---------|------|
| ① Brain cancer  | [18.4%] | ③ RF radiation        | [23.9%] | (正解) |
| ② Mobile phones | [46.6%] | ④ Scientific evidence | [9.8%]  |      |

この問題に答えるためには、問題文本文から以下の文を見出し、正しく理解する必要がある。

Many people are worried that they may be receiving “something bad” from their mobile phones --- something that can’ t be seen but can give you a sickness, even cancer.

この引用文を含めた、文章全体の大まかな内容が理解できているという前提のもとで、問題の選択肢の中で迷うものがあるとするれば、①の Brain cancer となるはずである。しかし、本校の学生の回答を見ると過半数の学生が異なった選択をしているから、そもそも文章全体の主旨を理解できていなかったと言う結果となる。

構文だけでなく、radiation, evidence, harmless, cancer, negative health effects 等、技術者であれば知っておくべき語彙を認識していなかった可能性もあり、大きな課題を残している。

#### 5. 語彙・文法およびリーディング・セクション総括

全体の結果として、日常表現、速読に関するの出来はよいが、説明文の読解に求められるような静的な文の理解、単語力は不足していることが分かった。単語力については、語彙のセクションで本校生の出来の悪かった問題の多くは、表Aに見られるように単語集 DB 3000 に載っているものであった。すなわち、本校の学生にとっては既習事項のはずであった。

なお、リスニングパートでも述べたように、英語科では昨年度より、単語の定着を図るために、同じ単語集を3年間繰り返しテストするようにしている。また、3年生のリーディングの授業では主に説明文などを扱っている。実践的な表現や速読に重点を置いた全体の方針は現在のままで、こうした点を具体的に補強していくことで本校生の英語力が増すのではないかと期待している。

(表A) 語彙・文法問題 高校生との比較

問題番号	評価	キーポイント	高松高専生正答率	高校3年生正答率	高校1年生	高3差分	高1差分	Database(単語集)該当箇所
1		floor「(建物の)階」	90.2	91.9	86.8	-1.7	3.4	
2		It was built... (受動態)	83.4	86.3	88	-2.9	-4.6	
3		look for - 「-を探す」	82.2	77.1	73.6	5.1	8.6	
4		enjoy -ing	71.8	72.4	84	-0.6	-12.2	
5		That (sounds) great.	81	76	77.3	5	3.7	
6 #		by the window (近接を表す表現)	98.2	73.1	84.3	25.1	13.9	
7		be proud of -	68.7	73.1	70.3	-4.4	-1.6	
8 #		a new one (不定代名詞)	87.7	74.5	76.5	13.2	11.2	
9		reason	76.7	80.2	78.2	-3.5	-1.5	
10 #		more useful than -	92	80.8	85.5	11.2	6.5	
11 *\$		be good at	24.5	59.2	65.3	-34.7	-40.8	
12 #		I've been here since -	92.6	80.1	85.9	12.5	6.7	
13 *\$		borrow	22.1	59.9	56.8	-37.8	-34.7	Level 3 (p.124)
14		don't have to	61.3	61	69.1	0.3	-7.8	
15		How many days -?	42.9	43.5	43.3	-0.6	-0.4	
16		Do you know where Linda is? (間接疑問文)	41.1	53.1	61.8	-12	-20.7	
17 #		Turn down the music.	72.4	52.8	55.5	19.6	16.9	
18		I was so tired that -	92.6	89.8	90.2	2.8	2.4	
19 \$		That's a pity.	36.2	50.2	31.8	-14	4.4	
20		enable+O+to不定詞	67.5	67.8	62.4	-0.3	5.1	
21		apointment	82.2	79.8	70.3	2.4	11.9	
22		This candy (tates) like - (状態動詞)	70.6	61.4	60	9.2	10.6	
23		increase	43.6	42.2	41.8	1.4	1.8	
24 \$		If I were free, I would go with you.	32.5	57.8	43.5	-25.3	-11	
25 \$		reminds me of -	38.7	55.1	40	-16.4	-1.3	
26		I'll wait here until Brenda comes (時をあらわす副詞節の中の時制)	47.9	53.6	44.7	-5.7	3.2	
27 *\$		(close) friends	11.7	43.9	36	-32.2	-24.3	Level 4 (p.178)
28		Do (what) you think is right.	47.2	49.9	44.1	-2.7	3.1	
29		appreciate your help	38	51	32.1	-13	5.9	
30 #		keep+O+形容詞	44.8	29.9	28.3	14.9	16.5	
31 *\$		be responsible for -	27.6	42.5	29.9	-14.9	-2.3	Level 4 (p.168)
32		either A or B	49.7	57.1	44.6	-7.4	5.1	
33		the seating (capacity)	38.7	39.6	27	-0.9	11.7	
34		When I got to the station, the express train had already left.	58.3	63.8	63.7	-5.5	-5.4	
35 *		extinction	25.8	32.5	24.4	-6.7	1.4	
36		Not only did she win -, but she won - as well	50.3	54.3	48	-4	2.3	
37 *		transfer	23.9	33.1	26.1	-9.2	-2.2	
38 *\$		The Detroit Motor Show, which was held last week, showed-	28.8	41.1	31.5	-12.3	-2.7	
39		neglect	31.3	33.4	20.3	-2.1	11	
40 *		Having traveled around the world, - (分詞構文)	26.4	34.2	26.3	-7.8	0.1	
41		available	33.1	34.3	22.5	-1.2	10.6	
42		If you should need- (if節の中のshould)	30.1	26.6	25.4	3.5	4.7	
43		reluctantly	36.8	33.1	24.6	3.7	12.2	
44 *		No matter how-	23.9	28.3	21.6	-4.4	2.3	
45 *		recommend	29.4	32.8	24.8	-3.4	4.6	Level 5 (p.236)
46 *		S is said to have been	15.3	16.4	14.2	-1.1	1.1	
47 #		sum	41.1	27.2	25.5	13.9	15.6	
48 *		all the better	15.3	21.3	13.7	-6	1.6	
		平均	50.6	53.7	49.6	-3.1	1	

凡例 # 本校生の高校3年生との差分が+10ポイント以上, \$ 高校3年生との差分が-10ポイント以下, \* 本校生の正答率が30%未満